

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 川津章弘	電話番号	0852-22-5132
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	乳用牛生産振興事業		
目的	(1) 対象	酪農家	
	(2) 意図	酪農家の経営安定	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳用牛の改良に継続的に取組み、乳用牛1頭当たりの生産乳量を増加させ、収益性を高めるための対策を実施する。</li> <li>・生産された生乳の安定流通を支援し、酪農の生産振興を図る。</li> </ul>		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	生乳生産量	目標値	64,200.0	65,400.0	66,600.0	67,800.0	69,000.0	t
	式・定義	当該年次による生乳生産量	取組目標値						
				実績値	64,994.0				
			達成率	101.3	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
				実績値					
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	6,282	2,092
うち一般財源 (千円)	5,991	1,799

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基じた現状)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家戸数の減少は進んでいるが、乳用牛の飼養頭数は横ばいで推移している。本年度の全体乳量は前年度を上回っている。</li> <li>・牛個体の生産性は向上しており、1頭あたりの生乳生産量が増加し、大規模農家を中心に牛群の改良も進んでおり、それらの農家は規模拡大志向にある。</li> <li>・一方、飼料代の高止まり、初妊育成牛の高騰が続いており、酪農経営環境は厳しく、中規模以下の酪農家は収益性向上が課題となっている。</li> <li>・牛群検定加入頭数は県全体飼養頭数の2.4%、また搾乳機械による判明も含めた生産乳量把握割合は県全体飼養頭数の6.2%となっている。</li> </ul> 県全体飼養戸数：118戸（公署2戸除く） メガファーム（年間生乳生産量1,000t以上）：12戸 1戸当り乳用牛頭数：87頭
---

6. 成果があったこと (改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農飼養戸数は1戸増加した（前年度：20戸減少）</li> <li>・県全体生乳生産量が3%増加した（平成26年次62,805t→平成27年次64,994t）</li> <li>・平成27年度事業により1法人が規模拡大した（183頭増頭）</li> </ul>
--

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <p>乳用牛の個体能力が正確に把握できない農家については、後継乳用牛能力向上が的確に行われない可能性がある</p> <p>把握できていない農家：60% 飼養頭数割合：38%</p>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <p>個体乳量が把握できるシステムは構築されているが体制が整備されていない</p>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営安定化のために、収益性の高い牛群を整備するために、飼料効果の低い牛を淘汰する必要がある</li> <li>■牛群検定の実施について                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①牛群検定が煩雑で定期的に検定作業が実施できない</li> <li>②関係機関はコストに見合う作業代替する検定員を確保できない</li> </ul> </li> <li>■乳量把握できる機械導入について                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①投資が必要であることから、乳量等を把握できる機械の導入ができない</li> </ul> </li> </ul>

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模農家については、牛舎、機械導入時に乳量等を把握できる機械の積極的な導入を促し、乳量把握ができるよう推進する</li> <li>・牛群検定の推進については、検定実施の支援体制の構築、簡易で乳量把握できるシステムを検討していく</li> </ul>
---

9. 追加評価 (任意記載)

--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。